

2006年1月20日

国際防災・人道支援フォーラム

「災害語り継ぎネットワーク発足記念フォーラム」

於 JICA兵庫国際センター

基調講演

災害に出合うとき

— 語り継ぐことの大切さ —

広瀬 弘忠

(東京女子大学)

# 災害を語り伝えることの大切さ

忘れてしまった人の心に古い記憶をよみがえらせる  
災害を経験したことのない人に、災害の悲劇を疑似  
体験させる



生の言葉の力

同じ悲劇をくりかえしてはならないという気持を持つ



防災への動機づけ

# 伝える様式の変遷

生の素材

原体験(非言語的感情、心身への外傷体験)  
—筆舌に尽し難い—

原体験の客体化

体験の言語化と整序

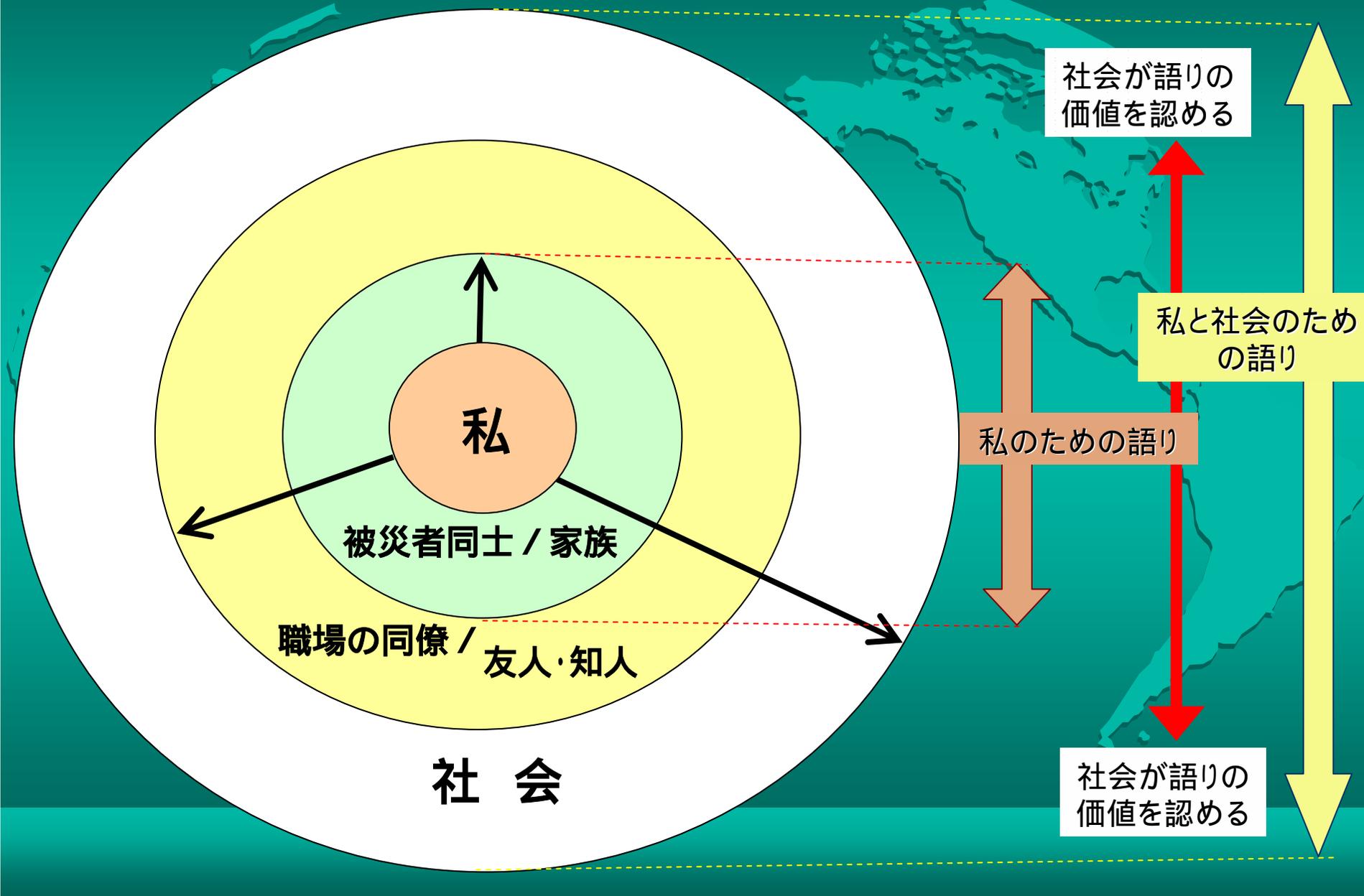
語り部の誕生(語りの様式化)  
—広島・長崎の原爆、沖縄戦、阪神大震災—

語りの定着と普遍化

加工された  
素材

文芸(詩、小説、絵画、音楽など)

# “語り”と“場”の広がり(私から社会へ)



## なぜ語り部が必要なのか

短期間のうちに原体験は忘れ去られてしまう

阪神大震災の被災体験の風化

調査対象者 回答項目	再建マンション住民	復興住宅住民
かなり風化しつつある	41 (%)	29 (%)
少し風化しつつある	50	49
あまり風化していない	9	15
まったく風化していない	0	5
無回答	0	2
合計	100	100

(共同通信社 2005年12月調査)

## 被災体験を風化させないために重要なこと

調査対象者 回答項目	再建マンション住民	復興住宅住民
語り部活動や子どもたちに震災経験を話し聞かせるなどの被災者自身の活動	24 ( % )	23 ( % )
行政による復興支援施策の継続	20	26
防災の啓発活動	24	7
マスコミによる継続的な報道	9	13
国内外への被災地支援や人材派遣など震災経験を活かす活動	8	9
知事・市長ら国や自治体トップが参加する形での追悼式の継続	9	6
NPOなど民間団体によるさまざまな集いの実施	4	6
その他	2	5
無回答	0	5
合計	100	100



(共同通信社 2005年12月調査)

## 神戸大水害(1938年7月:今から68年前)

- ・梅雨前線が六甲山系に記録的な豪雨。
- ・山沿の各処で地盤の大崩壊。
- ・急峻な山系からの濁流は山津波となって市街地を襲った。

被害: 死者・行方不明者 925人 (市民の千人に1人)

罹災人口は神戸市(当時の人口は96万4千人)の72.2%

家屋被害 72.1%

道路は寸断。省線、市電、阪急、阪神、山陽電鉄は不通。神戸は孤立し被災者であふれた。



現代ではこのような大水害は起らないだろうか？

## 神戸大空襲(1945年に集中:今から61年前)

- ・1942年4月から1945年の敗戦直前までに空襲回数 128回。  
そのうち 125回が1945年に集中。

被害: 死者 7491人 (市民の千人に8人)。  
重軽傷者 1万7014人。

空襲による被害からの戦後復興は長期にわたり、  
市の戦後復興事業が終わったのは、阪神大震災  
の前年の 1994年であった。

再建への長い道のり

忘れられた災害ではないか？

# 阪神・淡路大震災 (1995年1月17日)



# インド洋大津波 (2004年12月26日) 津波の危険を知らず被害に合う人々



# ハリケーン・カトリーナ (2005年8月25日～31日) ニューオーリンズが水没することを夢にも思わなかった人々



# “語る”ことの意味

被災者  
(辛い被災体験、理解されない苦しみの抑圧)

語りの場の提供  
語り部への勧誘  
語り部への保障

個人的被災体験を語る  
(外傷性記憶、語ることで客観化)

個の枠を超えた社会性を獲得

聞き手  
感動させ、影響を及ぼす(防災)

フィードバック

語り手  
効力感、社会の役に立つ自分自身の確認



ご清聴ありがとうございました